

みつぎ便り

見次の会

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体です

104号
5月号

平成27年5月1日

<http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>

タンポポ

「タンポポ」(蒲公英)は、春になると至る所で見かける良く知られた花ですね。見次公園にもあちこちに咲いています。

日本のタンポポには「カントウタンポポ」「カンサイタンポポ」「ヒロハタンポポ」「エゾタンポポ」「シロバナタンポポ」など、十種類ほどのタンポポがあるとされます。でも今では、明治の初めに帰化した「セイヨウタンポポ」の勢力が優勢です。その一因として、受粉しなくても種子を作れることがあげられています。見た目にはあまり変わりませんが、花の裏側にある萼(がく)のような総苞が、セイヨウタンポポでは反り返り、カントウタンポポでは反り返らないので、すぐ見分けられます。



タンポポは、形が鼓(つづみ)に似ているので鼓草、その音からタンポポと言われるようになったとも。
(利)

みやこわすれ

公園東の舗道脇に可憐に咲いて、通る人に憩いを与えてくれているのが「みやこわすれ」です。都忘れとは素敵なネーミングです。紫紺色の花を上向きに開く姿にも気品を感じさせます。

鎌倉時代の第八四代天皇の順徳院は父の後鳥羽上皇と共に朝廷の勢力を挽回すべく「承久の乱」を起こすも失敗し、承久三年に北条氏によって、京を追われ佐渡ヶ島へと流されました。島へ渡ってから華やかな都の

暮らしを忘れさせ、心を慰めたのがこの花だったことから「みやこわすれ」と名付けられたそうです。

清楚な花の姿は心の平穏を取り戻すのに最適だったのでしよう。ちなみに、父親である後鳥羽上皇が愛した花は『菊』で、衣服に菊の模様を付けたのが始まりで、後に皇室の紋章となったとのことです。
(雅)

百敷きや 古き軒端の
しのぶにも なほあまりある
昔なりけり
順徳院

